

ビダーザ療法(点滴静注)

外科：管理番号 RSJ020

処方医：

適応症：骨髄異形成症候群

4週間を1サイクルをとして投与を繰り返す

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
ビダーザ	●	●	●	●	●	●	●																						

身長： _____ cm 体重： _____ kg 体表面積 _____ m²

[投与スケジュール] (_____ クール目)

Day1(月 日)、Day2(月 日)、Day3(月 日)、Day4(月 日)

Day5(月 日)、Day6(月 日)、Day7(月 日)

薬剤名	投与量	
グラネトロン点滴静注用バッグ3mg	1瓶	点滴静注30分
注射用水		点滴静注 10分
ビダーザ 75mg/m ²		
生食 50mL	1瓶	
生食20mL	1管	側管からルートフラッシュ

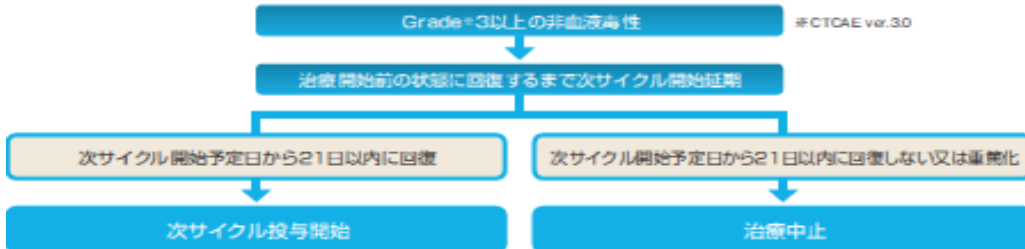
1瓶(100mg)に付き注射用水10mLを注入し、激しく振り混ぜて完全溶解生食50mlに混合(炎症)

DLF : 骨髄抑制、腎機能障害

休薬・減量基準

1 Grade3以上の非血液毒性

Grade 3以上の非血液毒性が発現した場合は、以下の基準を目安として、次サイクルの延期あるいは中止を考慮してください。



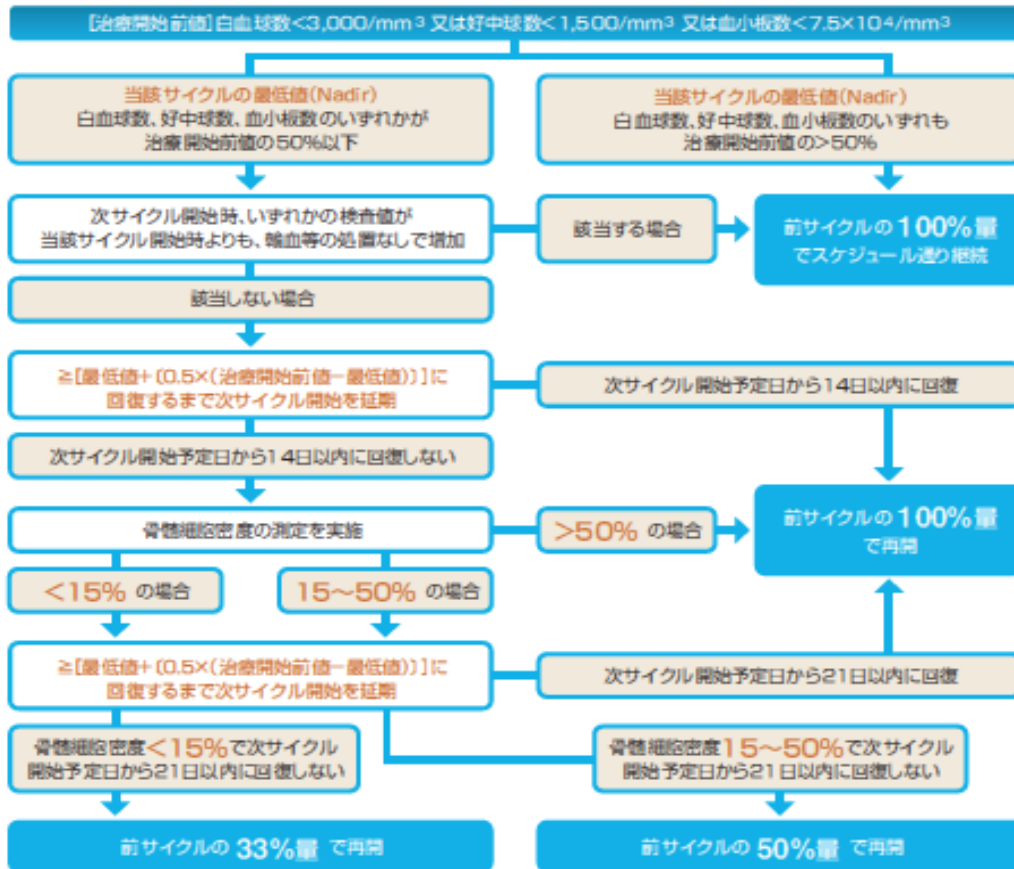
2 血液学的検査値による投与量調節

- 本剤投与前及び投与中は、血液検査(血球数算定、白血球分画測定等)を定期的に行ってください。
- 治療開始前の白血球数、好中球数、血小板数に基づいて、以下の基準を設定していますので、この基準を目安として、次サイクル以降の投与について適切に減量、治療開始の延期(休薬)を行ってください。

■ 治療開始前の血液学的検査値が以下の全てを満たす場合



■ 治療開始前の血液学的検査値が以下のいずれか1つ以上に該当する場合



3 腎機能及び血清電解質による投与量調節

- 定期的に血清重炭酸塩(静脈血)、腎機能パラメータ(BUN、クレアチニン等)の推移を確認してください。[[7.3 投与中の注意事項(▶ P.17参照)]]
- 異常が認められた場合には、適切な処置を行うとともに、以下の基準を目安として、次サイクルの減量又は治療開始の延期(休薬)を行ってください。

■ 血清重炭酸塩



■ BUN又は血清クレアチニン



[重篤な副作用]

- ・骨髄抑制
- ・感染症
- ・出血
- ・心障害
- ・ショック、アナフィラキシー
- ・肝機能障害、黄疸
- ・腎不全、腎尿細管性アシドーシス
- ・低血圧